

Happy-Hamakan-News (HHN)

浜医看護学発 第2巻 第3号

2015年12月号

浜田医療センター附属看護学校

授業風景 院外講師 ヘネベリー先生

看護を語る 世木先生

授業風景 教育実習生 片山先生

学校祭を終えて

老年看護学実習Ⅰ・

小児看護学実習Ⅰまとめの会を終えて

模擬患者演習を終えて

ナーシングセレモニー

独立行政法人
国立病院機構 浜田医療センター附属看護学校 ナーシングセレモニー



独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター附属看護学校
〒697-8512 鳥根県浜田市浅井町 777-12
Tel.0855-28-7788
mail : kanri-t@hamakan.nh.jp
<http://www.hamakan-nh.jp/>

発行責任者 石黒眞吾
編集責任者 福田明美
編集 田儀千代美、藤井光輝、隈部直子
小田川良子、畑中美保、世木幸雄
田中茉緒、三家本八千代
岩成美樹、松野由香、金山和正



医療現場における英会話

島根県立大学講師

英会話講師

ヘネベリー・スティーヴン



医療の現場で役立つ英会話を中心に「英会話」の授業を担当させていただいています。

医療現場における英会話は幅が広いです。それは単に病名や症状を覚えることだけではありません。患者さんは問題があつてこの場にいるのですから心配で不安です。その状況を把握し共感し患者さんを安心させることが第一です。英語がうまくできないかも、と心配するより患者さんが何を必要としているか理解することを忘れないでください。

私自身、普段の生活において意思の疎通がうまくいかず心配になったり苛立ったりすることがあります。しかし私の問題は、患者さんのそれと比べたら大したことではありません。医療現場においては命に関わることとなりうるからです。

テキストの中では、様々な場合のロールプレイングの会話が載っています。世界には様々な宗教、文化、習慣、価値観があります。大人から子ども、患者さんの家族との関わりなど、幅が広いとはこのことです。医療の現場も様々ですので、自分が当たり前だと思っていることも、患者さんにとっては違和感を感じることもあります。

最後に私からの課題です。

卒業旅行には日本語の通じない国へ出かけてみてください！不安や心配になることもあるでしょう。しかしこの貴重な経験は、「英会話」の授業で勉強したこと以上に、将来看護の場で役に立つこととなるでしょう。「共感」することの大切さを肌で感じるができるでしょう。



初めての手当て

看護教員 世木 幸雄

看護師 1 年目の夏、看護師になって 2 ヶ月経ち、一生懸命に日々看護を行っていました。不器用な新人看護師で、失敗ばかりで、患者さんや先輩看護師にも迷惑をかけ続け、身体的にも、精神的にも辛く、「私は、何にもできないな…。」と、落ち込んだ日々が続きました。

そんな中、入院される患者さんを受け持ちました。穏やかな雰囲気、明るい声と、笑顔が印象的でした。病気は末期の悪性腫瘍でした。今までに病気をしたことがないのが自慢であったため、病気の話になると、表情が明らかに曇っていました。入院したその日に主治医からの病状説明があり、受け持ち看護師の私も同席しました。話が始まる前から、患者さんの緊張感から、ピリピリとした空気が流れていました。そして、主治医からの説明が始まると、患者さんは両手を膝の上でギュッと握り、歯を食いしばっておられました。大きな不安と恐怖と戦うその姿に、胸が苦しくなりました。その瞬間、無意識に患者さんの背中に手を当てていました。病状説明が終了し、主治医と家族が退室し、不明な点がないか確認した時に、「あんたの手がよかった。」と、涙を流しながら伝えてくださいました。患者さんの不安や恐怖を傍で感じ、「苦しいな…辛いな…」と、私も苦しく、辛くなり、患者さんの苦しむ様子を見て、何かできないか、どうにかできないかと思い、無意識に手を当てていたのだと思います。

自分には何もできないと思っていた私は、患者さんの反応に驚き、胸が熱くなりました。「私にも、出来ることがあった。患者さんの役に立てることがあった。」と思い、帰り道の足取りが軽かったことを覚えています。看護師として働き始め、忙しく過ごす中で、患者さんを思い、手を当てるという看護を忘れていたのだと思います。患者さんの思いや苦しみを傍で感じ、思いを寄せること、手を当ててその思いを伝えることの大切さを改めて学んだ新人看護師の頃の思い出です。

教育実習でふれた優しさ

広島県看護教員養成講習会

片山喜友



病院で看護師として仕事をしながら学生が実習に来た時は指導者として関わっていました。教員を希望したきっかけは学生と関わることが面白いと感じたこと、学生がどのように成長していくのか見てみたいと思ったことです。教員養成講習会に参加が決まり、看護学校以来十数年ぶりに学生を経験することになりました。教員養成講習会では講義を受けたり、実習や授業の指導案を作成したり他の参加者とグループワークを行い学んでいます。教員養成講習会にも看護学生と同じように学習したことを実践するための教育実習があります。この教育実習のために浜田医療センター附属看護学校に来させてもらう機会をいただきました。

教育実習を通して教員の仕事内容の一部を見ましたが、その内容は多忙の一言でした。授業、実習、セレモニーの対応、講師対応、委員会、学会や勉強会への参加、研究など様々なものがありました。また教育実習では実際に教員や看護学生と関わりながら、指導案を作成し指導したり授業を行ったりしました。何度も練習し、自分ではイメージしていたことでも実際にその場になると緊張してしまい、上手く伝えることができないこともありました。しかし自分では上手くできていないと思った時も学生の優しさに助けをもらいながら、何とか伝えることが出来たのではないかと思います。伝えることの難しさを知ると共に学生とのやりとりを通して学生の優しさを感じる事が出来ました。

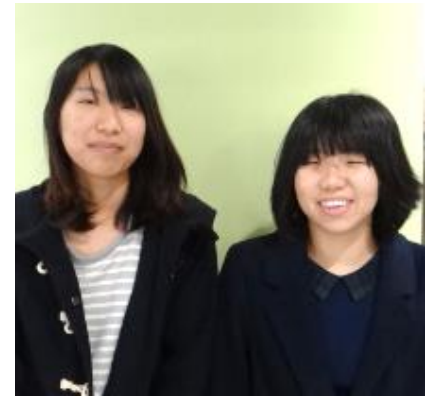
自分自身が教育実習で経験したように学生に優しさを伝えることができる教員になりたいと思います。浜田医療センター附属看護学校の温かく優しい教員と看護学生に支えていただき多くのことを学ぶことが出来ました。3週間の教育実習本当にお世話になりました。

学校祭を終えて

縁～深めよう地域とのつながり 団結しよう学年を超えた友情～

学校祭運営委員

2年生 勝部芙美 川角早紀



学校祭の運営委員として、学校祭の準備から片付けまで、各係や先生、先輩方と連携をとりながら運営をしました。4月ごろから準備を始めていき、最初は各係のリーダーや副リーダーに指示を出したり、報告・連絡・相談をしたりすることに慣れておらず、戸惑うことも多くありました。しかし、先生や先輩に助言をもらいながら月に1度、各係の活動状況や検討事項について話し合いを行う運営委員会を実施して、同じ係だけでなく別の係からも意見をもらいながら準備を進めていきました。学校祭が近くなるにつれて係と係の間で、相談をしなければいけないことも多くなっていき、運営委員を中心に別の係との話し合いや確認作業を行い、連携をしていきました。そのような時に、先生や先輩から提案・助言をしていただき、その状況を乗り切ることができ、自分たちの計画に不十分な点があったことに気づくことができました。

学校祭の1日目の上映会では映画「うまれる ずっと、いっしょ。」を上映しました。事前受付、当日受付ともに、昨年よりも多くの一般の方の参加がありました。そして、上映会後の意見交換にも参加をしてくださった方もいて、「うまれる ずっと、いっしょ。」を観て学生が感じたことを一般の方にも知っていただくことができましたと思います。学生は命について深く考えることができたのではないかと思います。

2日目には2031名もの方が来校してくださり、フリーマーケットや模擬店、イベントなどで多くの方に楽しんでいただくことができたのではないかと思います。

このように、準備・当日・片付けを通してすべての学生が協力して、地域の方々に楽しんでいただくことで、今年の「縁～深めよう地域とのつながり 団結しよう学年を超えた友情～」というテーマに沿った学校祭を行えたのではないかと考えました。

来年は今の1年生が中心に学校祭運営をするため、「何で困ったか」「何をしなくてはいけなかったか」などを伝え、今年の反省点を来年に活かすことができるような引き継ぎをし、また、自分たちが後輩のサポートを行って、来年もより良い学校祭にしていきたいと考えています。



復興支援係 2年生 井塚光希



今回の復興支援係の活動を通して、東日本大震災から4年がたってもまだ支援が必要だと感じました。被災地のポスターや写真などを掲示したことで現在の状況を知ってもらって、それらを見て募金して下さった方もいました。

また、被災地の商品を購入して下さる方もいました。募金は全額日本赤十字社に義援金として送りました。ありがとうございました。

事前準備や当日の活動を振り返って、計画を立てるのが遅かったと思います。来年度は今年度の反省をふまえて、計画や準備などをしていけたらと思います。



宣伝係 2年生 今岡友美



当日までの準備では、主にポスター、パンフレット、フライヤーの作成があり、自分達で考えたレイアウトをより良いものにするために、担当の先生や先輩方にたくさん協力していただきました。ポスターは特に力を入れていて、一番時間をかけて作成しました。来場者アンケートに「行きたくなるようなデザインだった」などと書かれていて嬉しかったです。

また、当日は2000人を超える来場者があり、とても賑わいました。ご来場くださった皆様、応援してくださった皆様ありがとうございました。宣伝係は浜田駅北医療フェスタのステージでの学校祭の宣伝や、来場者への学校祭のパンフレット配布を行いました。宣伝に回っている最中、「どこでやってるの?」「神楽は何時から?」など、声を掛けられることが多く、看護学校の学校祭にも興味を持っていただけているということが分かりました。地域の方々に日々支えられているということを改めて感じる事が出来ました。

リーダーという役割を通して、責任を背負うという重大さ、皆をまとめる難しさ、私達の学校生活を支えてくださっているたくさんの方々の存在を知ることが出来ました。来年は今年の内容を活かし、後輩たちを支えていきたいと思っています。

フリーマーケット 2年生 勝部甲二郎



フリーマーケットでは看護学校の学生や教職員、浜田医療センターの職員の方々からフリーマーケットの商品となる物品を集めさせていただき、学校祭で販売させていただきました。また、看護学生の実習や授業の中でお世話になっているシルバー人材センター、浜っ子作業所、紫香会の3施設にも出店させていただき、盛り上がりのあるフリーマーケットになりました。そして、準備や学校祭当日の販売、片付けなどを助け合いながら行うことで学年間の絆を深め、情報交換し合える関係性を築くことができましたと思います。そのため、学校祭当日は買い物に来てくださった地域の方々をはじめ、今年も出店してくださった外部の施設の方々と学生全員が笑顔で交流できる活気のあるよい企画となったと思います。来年は今年の良かった点や反省点を生かして全員が楽しめるより良いフリーマーケットになるようにしていきたいです。



学校紹介 2年生 橋坂彩



私達は、学校の各月の行事や学校生活の様子・1日の流れについて模造紙とスライドショーを作成しました。模造紙に仕掛けを作り、目を引くような工夫が出来ました。しかし、追加・修正の時間まで考えておらず計画的に進めていくことが出来ませんでした。どの項目にどんな写真がどれくらい必要か細かく決め、先を見通した計画性が大切だと学びました。

私達の“こういう風にしたい”という企画案を担当の先生や先輩方は否定せずアドバイスをしてくださったため、安心して取り組むことができ、周囲に支えられていることを実感しました。また、今後、実習や行事などに取り組む際には、早め早めに準備を始め、何か問題が生じた時にすぐに対応できるようにしたいと思います。

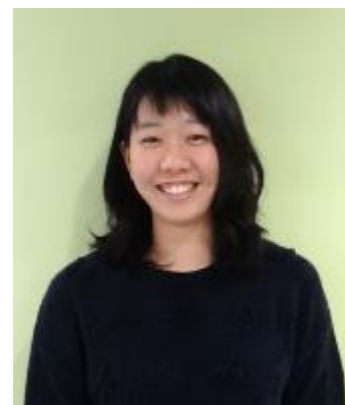
模擬店 2年生 長妻美佐



今年度の模擬店では、フルーツポンチ・うどん・ジュース・パン・フランクフルトの販売を行いました。前日までの準備では、各学年の伝達が不十分だったり、各係りとの情報共有が上手くいってなかったりと、分からない事が多くつまづくことが多かったです。当日にはアクシデントもありましたが、多くの来場者のおかげで、販売していたものはすべて完売させることができました。また、バタバタしていましたが、学生も当日は楽しみながら調理販売を行うことが出来たと思います。今年度の模擬店で出た反省点、良かった点を周知し、来年度の模擬店に生かし、学校祭に来場された方々の楽しみとなるような模擬店にしていきたいと思います。模擬店に足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。



ちびっこランド 2年生 須藤瑠衣子



対象をあまり深く考えず「子ども」としていましたが、子どもの中でも年齢・成長・発達において関わり方が違うという事を考える必要があったと実感しました。例えば、お絵かきコーナーでは1歳の子はクレヨンを口に入れようとしたりするため、クレヨンを床に置かないようにする必要がありました。そして、各コーナーで年齢制限を決めるなどしていくとよかったと考えました。子どもがどんな事まで安全に行えるかという事を理解していないと計画・実施することが出来ないという事が分かりました。また、沢山の企画を準備するのは、沢山の子どもと触れ合うためには良かったですが、当日担当者の人数が減った時の事を考えておらず困りました。一人一人が自分の役割に精一杯になって、全体を把握することが出来なかったため、担当者が不足する場面もありました。担当者の人数も考えて念入りに企画する大切さを学ぶことが出来ました。

子どもと触れ合う機会がない私にとって、一度に沢山の子どもと触れ合うのはどうしたらいいか迷う場面は多々ありましたが、実習で学んだことを生かして子どもたちと関わることができました。子どもたちの楽しそうな笑顔を見て、今回この企画をして良かったと思いました。

イベント 2年生 岸歩美



今年度のイベントは昨年と同様5階講堂で行いました。当日多くの方に利用していただき、真田先生率いる少年少女合唱団 S&S 様、江津パフォーマンスドールの皆様、佐野子供神楽社中の皆様の素晴らしい演出により、講堂が大いに盛り上がりました。また、無料お茶どころを設置し、講堂での出し物をゆっくりくつろいで見ていただくことができました。

ハンドマッサージは、毎年行っており、「気持ちよかった」、「リラックスできた」などの好評を頂き、来年も引き続き実施していきたいと思いました。

ちびっこランドを運営するにあたって、ボールプール、お絵かきコーナー、工作コーナーの3つの企画を実施しました。事前準備から当日までこの半年間悩むことや行詰ったことも多くありましたが、先生方を初め3学年が協力し学校祭当日を無事迎えることができました。また、多くの地域の方に来場していただき、楽しんでいただくことができました。

今回の学校祭のテーマでもある『縁～深めよう地域とのつながり、団結しよう学年を超えた友情～』にもあのように地域の皆様とのつながり、全学年での団結があったからこそ成功を収めることができたと思います。ありがとうございました。



江津パフォーマンスドール



真田先生&少年少女合唱団 S&S



ハンドマッサージ



佐野子供神楽社中

学校祭会計係 2年生 前田葵

学校祭当日をめざして、定期的に全ての企画が集まり、3年生のアドバイスを追加しながら半年間準備を進めてきました。会計係の主な事前準備は、各企画と相談し、必要な予算を決定することでした。大きな行事を進めるにあたり、物事が計画通りにいかない時もありました。しかし、1人で考え込むのではなく、改めて報告、連絡、相談をすることが1番の解決策だと学びました。今回の学びを今後の実習等にも生かしていきたいと思います。

当日は、模擬店の会計を担当し、来ていただいたお客様に笑顔で対応することができました。去年は2ヶ所での会計を行い、列が混雑したという反省があったため、今年は3ヶ所の会計配置に変えました。それにより、会計をスムーズに進めることができたので良かったです。

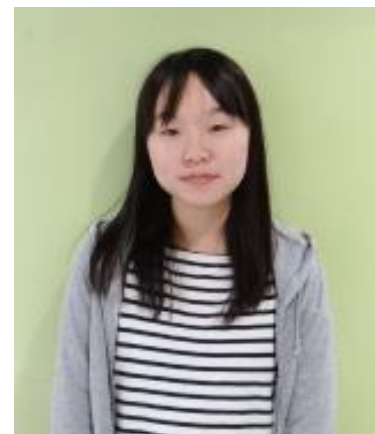
来年の学校祭が今年以上に良いものになるよう、良かった点、改善すべき点を明確にしていきたいと思います。学校祭当日は、多くのご来場ありがとうございました。来年も是非、看護学校へ足を運んで頂けると嬉しいです。



物品係 2年生 松尾純恵

物品係の主な活動は、学校祭での各係の仕事が行えるように物品を貸し出すことです。学校の物品は個数に限りがあります。そのため、物品係が学校の物品数を提示し、各係と調整し貸し出すといった活動をしています。各係は役割を果たすため、欲しい数を提示しますが、他の係と被ってしまったり、数が足りなかったりと問題も出て来ました。しかし、係同士と物品係で話し合いをして、互いに納得のいく形で物品の貸し出しを行うことができました。

また、前日や当日にも物品の数が合わなかったり、各係から物品の追加があったりしましたが、代用物品などで調整を行い、最終的には、無事物品を貸し出し、各係が学校祭の役割を果たせたので良かったです。



2年生 岩佐紗弥加 前田素美



小児看護学実習Ⅰでは、「健康な子どもの成長発達を多角的に捉え、子どもとの関係づくりを学ぶとともに、個々の成長発達段階に応じた看護実践に必要な基礎的能力を養う」ことを目的に実習しました。私たちの多くは普段子どもと関わる機会は少なく、どのようにして子どもと関わればよいのか悩みましたが、グループ内で意見交換を行い、保育園の先生の関わり方を見て学ぶことができました。そして、小児のまとめの会では、3つのグループの発表を聞きました。「親の存在」や「年齢ごとの日常生活や食事の関わり方」、「危険予測と関わり方」といった違った視点からの発表でした。乳幼児期は数か月から1年の年齢差や家族関係、家庭環境でも成長発達には大きく影響していることが分かりました。そのため、子ども自身に考えてもらう介入の仕方や、行動を見守ることも大切で、声の掛け方を変えるなど成長に合わせた関わり方が大切だということを学ぶことができました。次からの領域別実習では疾患をもつ子どもと関わることとなります。健康な子どもと同じように1人の人として今回学んだことを基礎にして関わっていきたいです。

老年看護学実習Ⅰでは、「高齢者を総合的に理解し、人格を尊重しながら対象者に応じた看護が実践できる基礎的能力を養うとともに、自己の老年観を深める」ことを目的に実習しました。コミュニケーションをとり相手の特徴をとらえてメンバーで考えたレクリエーションを行い、交流を深めました。レクリエーションでは神経衰弱やカロリー当てゲームなど、健康に関して意識してもらうことを目的に行いました。様々な身体的特徴に合うようなゲームを考えることは難しく、また説明がうまくできなかった等の反省もありましたが、レクリエーション中はとても盛り上がり、レクリエーションをやる意義と大切さを学ぶことができました。まとめの会では、2グループが発表し、私たちが対象の心に寄り添い聞き手となることで思いや不安を表出できることがわかりました。対象が健康に暮らせるように心に寄り添っていくことが大切であり、対象の性格や背景を踏まえて全体像を理解することが大切であることを学びました。

まとめの会の発表では、物事を比較してまとめ、また文献を参考にしながら、みんなにわかりやすいプレゼンテーションを心がけました。しかし、まだ曖昧な部分が多く、内容がまとまっていない等のご指導をいただきました。また、ディスカッションでは、話の内容を深められるように進行することができないなどの反省点は多くありましたが、意見交換も活発になってきて少しずつ成長していることを感じました。今後、講義や話し合いの中で相手の意見を聞きさらに内容を深めていくように心がけながら、実習や学習の場につなげていきたいです。

今回の実習で学ぶ機会を与えてくださった方々や指導者、教員の皆様に心から感謝し、次からの実習へと繋げていくことができるようもう一度振り返り、今回の学びを生かしていきたいです。



模擬患者演習を終えて

シルバー人材センター会員 奥田望



今年もまた、シルバー人材センターの要請で浜田医療附属センター看護学校の学生さん達の実技演習に模擬患者役として参加致しました。63期生の学生さんたちは「自分の為に頑張る人。皆さんの為に頑張る人。」のスローガンを掲げ常日頃より研修勉学に励んでおられます。私達模擬患者は右腕骨折右足首捻挫の怪我で入院中の想定です。身体の汗の拭きとり・病院服の着せ替え等の作業に取り組んでおられました。私達高齢者の孫と同年代の学生さんは、時には寒くはないか、タオルの温度はどうかと、優しく声をかけ、また患者の気分を和らげる軽い会話を交わされたりしてその気配りに頭の下がる想いでした。作業中は教官の先生が採点のメモを取っておられ、学生さんはかなりの緊張感があった事と思われそうですが、日々の研修の成果を懸念し努力されていた様子でした。今後共博愛の精神を充分養われまして立派な看護師になられますことを祈念致しまして感想の一端と致します。ありがとうございました。



シルバー人材センター 宮崎正臣

今日は、模擬患者として看護学生さんに少しでも役に立つならと、参加致しました。

学生さんの緊張した雰囲気が感じられ真剣に対処されていました。対応態度、言葉かけそれぞれに考えながらやっておられました。マニュアルはあるのですが各学生さんで違いがあり失敗もあり、ああすればよかった、こうすればよかったと反省もあって体で覚えて自然に清拭できればいいと思いました。

私達も、もう少し考えて患者役に徹して演じればよかったです。患者にもいろんな人がいますから臨機応変に対処して下さい。

私も、いつか皆さんにやっかいになる日がくることでしょう。その時はよろしくお願いします。



1年生 西川龍平

僕の班では模擬患者演習の2週間前から援助計画を立案し、練習に取り組みました。骨折と捻挫をしている患者さんにどう援助すれば痛みが無く、安全安楽に清拭が行えるかをテキストや先生方に教わったことなどを参考にし、根拠を踏まえて援助計画を作成しました。

演習当日は緊張していましたが、練習通りに清拭を行えたのでほっと一安心しました。しかし、模擬患者をしてくださった方から「声をもう少し大きくしてほしい」、「わかりやすい説明をしてほしい」、「寝衣を着させるときは起きた方が楽」などの率直なご意見をいただきました。普段学生同士でやっているのとは違い、より臨床に近い雰囲気で行えてよかったと思います。

今後の課題として、技術や模擬患者演習での反省点を含めて改善していき、学習面や実習で活かせるようにしていきたいです。

模擬患者演習をしてくださった皆様、ありがとうございました。



ナーシングセレモニー

1年生 松浦和美

先日、私達 63 期生 39 名は、ご出席頂いた皆様の前で誓いを述べ、それぞれ思いを新たに無事ナーシングセレモニーを終えることができました。

準備の段階では、それぞれが役割をもち、意見を出し合い、協力して進めていくことができました。本番が近づくにつれ、進行が上手くいかず、悩んだり、みんなの意見が思うようにまとまらないこともありましたが、最後一致団結して、練習に望むことができました。本番では誓いの言葉を心を込めて伝え、ハートの形もきれいにすることができ、とてもいい思い出に残る式となりました。これから実習に行くことも多くなるので、この誓いをしっかりと頭におき、患者さんと向き合っていきたいと思います。



お礼の言葉 1年生 井上千嘉



学校長式辞

看護部長祝辞



3つの愛



記念品贈呈(同窓会長より)

誓いの言葉

私たち 63 期生 39 名は、ここにいる皆様の前でそれぞれ信念を持ち、この灯のもと誓います。

私たちは、家族や周りの人々のたくさんの見えない愛によって生きています。

小さなことを、大きな愛を持って行う気持ちを忘れずに、患者の声を目で見て、耳で聴き、心で感じ、一人一人に合った看護を行います。私たちは患者に愛・希望・幸せを運ぶ看護師になります。

ナイチンゲール誓詞にはこう書いてあります。「われは心より医師を助け、わが手に託されたる人々の幸のために身を捧げん」と。私たちは患者と共に闘い、その苦しみを分かち合い一緒に乗り越えていけるよう、講義や実習を通して様々な考え方や知識及び経験を培い、さらにボランティアに積極的に参加し、日々自己研鑽に励みます。

私たちは、看護師としての誇りと責任をもち、一人ひとりが自分を愛し、人を愛することのできる、陽だまりのような存在を目指します。

以上のことを誓います。



今年のナーシングセレモニーの全体のテーマは『愛』です。

そのため、しおりの花は『愛』という花言葉を持つカーネーションにしました。

色の違いでカーネーションの持つ花言葉も意味が違ってきます。



ピンク ～感謝・暖かい心～



赤 ～母の愛～



緑 ～集団美～



白 ～尊敬～

誓いの言葉と関連のある花言葉を持つ色を4つ厳選し、今回のしおりの表紙としました。



お祝いの言葉 3年生 福原里紗



ナーシングセレモニーしおり

今後の予定

- 1月7日 始業式
- 1月21日 一般入学試験
- 2月14日 看護師国家試験
- 3月4日 卒業式
- 3月17日 終業式
- 3月25日 看護師国家試験合格発表



浜田駅北医療フェスタ&学校祭

編集後記



12月に入り、すっかり冬になりました。学校祭・ナーシングセレモニーなどの行事も終わり、3年生は本格的に国家試験対策に入ります。そして、嬉しいことに医学書院から出版されている看護教育という看護雑誌に当校のHappy-Hamakan-Newsが特集として6ページ枠で掲載されました。看護雑誌に載った内容に恥じないようHappy-Hamakan-Newsを発行していきますので、今後ご愛読のほどよろしくお願いいたします。



ナーシングセレモニー



独立行政法人国立病院機構

浜田医療センター附属看護学校

〒697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12

TEL0855-28-7788

mail : kanri-t@hamkan-nh.jp

<http://www.hamakan-nh.jp/>